

2023年3月24日～25日

# 長野県北部震災被災地(栄村)における 文化財保全活動(第83回)報告

[2023年5月17日版]



地域史料保全有志の会

==== 目 次 ====

はじめに～	2
1. 第83回の基本データ	3
■日程	
■参加者	
■活動内容	
2. 報告会	3
(1)準備	
(2)報告会～前半4本の報告	
(3)報告会～後半2本の報告	
(4)ミニ資料展示の実施	
(5)報告会動画の配信	
3. 会計報告	5
<資料>報告会当日のプログラム	7

## はじめに

今冬の栄村は雪が少なく、残雪もかなり少なかった。以前の例年の状況から比べると、およそ1ヶ月くらいは早く雪消えが進んでいる感じである。地元からは、このままでは山菜や米作りにも悪影響が出るとの声も聞こえた。2022年度も相変わらず新型コロナウイルス COVID-19の感染は続き、かなり収束の状況は見えてきたものの、やはり本格的な活動は控えざるをえない世の中であった。それでも年が明けた3月に入ると、基本的に公共空間でのマスク着用は個人判断に移行し、2023年5月にはCOVID-19の2類感染症から5類感染症への区分移行も予定されている。

このようにだんだんと感染が収束しつつある中、昨年までは近隣住民の方は栄村の会場で、その他遠隔地の方などはオンラインを基本として開催していた報告会を、今回は制限なしの対面開催+オンライン併用で開くことになった。会場は、栄村役場内の「かたくりホール」を使用させていただき、地域史料保全有志の会主催、栄村教育委員会・栄村公民館共催という形で開催した。教育委員会のスタッフには、事前の会場確保から村内の広報、前日からの会場設営やオンライン機器の設定、受付やアンケートの回収コピーなどの面でさまざまにお世話になった。当日は、会場25名、オンライン約16名の方々が参集し、熱心に各報告に耳を傾けてくださった(オンライン参加者数は時間によって変動があり、すべてを把握できてはいない)。

今回も自然系の報告と人文系の報告とを取り混ぜて構成し、自然系は現在進行形の調査・研究進行状況に合わせた3本、人文系は考古の報告1本と過去の状況を振り返る歴史・民俗分野のもの2本を用意した。内容は多岐にわたったが、いずれも地元の方々の関心が高いものばかりであったといえる。会場で回収した18枚のアンケートのうち、「本日の講座はいかがでしたか？」という問いに対して、「とてもよい」「よい」「まあまあ」「その他」の選択肢があったが、「とてもよい」13名、「よい」4名、「まあまあ」1名という結果であった。「まあまあ」を選んだ方も報告時間が短かったことを残念と書かれており、内容に不満というよりは、「もっとじっくり聞きたかったのに」というご意見と理解される。自由意見欄も熱心に書いてくださる方が多く、欄外まではみ出して有用な意見を書いてくださる方もいて、来場者の熱心さを痛感させられた。村民の皆さんにとっては、自然系の事象も文系の内容も、広い意味では同じ栄村に関わる関心事であり、あえて分離するようなものではないことが改めてわかったのも収穫であった。来年度、またよりよい報告会が開けることを目標に、2023年度の活動につなげていきたいと思う。



「こらっせ」周辺の雪も例年より早く消えていた

## 1. 第83回活動の基本データ

■日 程：2023年3月24日(金)～25日(土)の2日間

■参加者：【村外からのスタッフ・報告者】白水智・高橋健樹・涌井泰二・柳澤賢一・高野宏峰・井上卓哉・長谷川裕彦・河原木良太

【村からのスタッフ・報告者】広瀬幸利・島崎佳美・南雲義文・相澤優樹・広瀬忠一・広瀬明彦・樋口正幸

■活動内容：

[3月24日(金)]

午後、会場の栄村役場に到着。「かたくりホール」にて会場設営を行う。今回は、Zoom を利用したオンライン併用で報告会を行うための音響設定にかなり手間取った。

※吉楽旅館泊

[3月25日(土)]

報告会当日。午前中、会場にて受け付け設営ならびに来場者への対応準備、また報告内容に合わせたミニ展示の準備を行った。また、オンライン接続の調整と最終確認を行った。

午後1時より報告会開始。終了後、会場撤収作業。

## 2. 報告会

### (1) 準備

報告会前日の会場設営では、前述のように音響設定にかなり苦戦した。オンライン環境自体は役場で整えられており、Zoom のアカウントも100名まで対応できるものを役場の側で用意していただいたので、問題はなかった。ただ、オンライン発信用に Web カメラを複数台用意してそれぞれパソコンに繋いだものの、マイク付きのカメラであったため、各所で音を拾うとハウリングしてしまう問題点があり、会場とオンライン視聴者の双方にクリアに音声を届ける設定に手間を要した。

また、事前の広報や会場設営、報告会当日の配布資料の準備や受付などに、昨年同様、共催となった村教育委員会・公民館の若いスタッフが周到かつ精力的に取り組んでくれたおかげで、滞りなく報告会を運営することができた。感謝を申し上げたい。

### (2) 報告会～前半4本の報告

以下、当日の報告について順に概要を紹介していきたい。

#### ①高橋健樹「長瀬新田遺跡表採資料の概要」(武蔵村山郷土の会事務局長)

高橋さんは、古くから存在が知られていながら調査が十分に行われていない長瀬新田遺跡について、その概要と注目すべき出土遺物を報告した。時代的にはひんご遺跡とほぼ同じ時期の遺跡と考えられる。また、火焰型土器の土器文様の変遷と生活の変化との関わり、さらに「栄式土器」と呼べる可能性のある文様についても触れた。

#### ②涌井泰二・広瀬明彦「すごいぜ！栄村の自然Part3～保全活動の取組



高橋健樹さん

### からわかる希少種の実態～」（栄村希少動植物調査員）

この1年で新たに棲息が確認された貴重なトンボや野鳥(猛禽類)などの報告もあり、栄村が自然の宝庫であることを再認識したが、中でもギフチョウに関しては生育条件が判明するとともに、増殖に向けての知見が多く得られた。とくに侵入者の抑制や、林内の刈り払いによる生育環境の確保が産卵率向上に有効であることが確認された。

### ③柳澤賢一「はたして、忌避剤により”秋山熊”から森を守れたのか？」（長野県林業総合センター研究員）

近年秋山では熊による植林樹皮の剥ぎ取り被害が多数に及んでいる。昨年までの実験で、熊が嫌う硫黄合剤を杉の根元30センチの高さに点状塗布することで樹皮剥ぎ被害を減らせることがわかったが、立ち上がって山側の樹皮を剥ぐ被害には対応できなかった。そこで山側の高さ1メートルの部分にも縦長に50センチほど線状に塗布したところ、ほぼ被害を受けないレベルまで皮剥ぎを抑制することができた。しかし、未処理の別区画で新たに被害が発生し始めている。捕獲とも併せた対策が必要である。



涌井泰二さん



柳澤賢一さん

### ④長谷川裕彦「栄村で2022年に発生した2箇所斜面崩壊について」（明星大学）

昨年発生した(A)切明温泉下流と(B)青倉対岸の2箇所の崩壊地についての考察が行われた。Aはおそらく幕末の善光寺地震時に発生し、中津川を堰き止めて切明にあった温泉を水没させた崩落とほぼ同一の場所で起きている。善光寺地震時の方が規模が大きかったと考えられ、標高900メートルの高さで川を堰き止めたのではないかと推定される。Bは中津川右岸の小さな崩落であるが、その露頭から、かつて対岸の青倉側から崩れてきた土砂の堆積した土塊であったことが明らかになった。また奈免沢川もかつてはより北方(下流側)で千曲川に合流していたのが、攻撃斜面への側方浸食によって上流側で千曲川に落ちるように変化したことがはっきりしてきた。



長谷川裕彦さん

## (3) 報告会～後半2本の報告

### ⑤白水智「『秋山』の始まりについて」（中央学院大学／地域史料保全有志の会）

秋山の起源については、近世以来、いくつかの類型はあるものの、戦に敗れた落人が隠れて住み着いたとする説ばかりが存在している。しかし少なくとも平安期には人の活動が雑魚川周辺など秋山のかなり奥地まで及んでいる。また文献史料上の初見も、通説より早い13世紀の半ばには遡るとみられる。その史料も秋山奥地での巢鷹争奪が焦点となっており、平安から鎌倉期にかけての秋山は、落人が忍んで住めるような状況にはなかったといえる。それならばなぜ秋山人の祖先は山奥に住み着いたのか、について1つの案を提示した。

### ⑥井上卓哉「秋山木鉢を作る・使うー木鉢にみる秋山のくらしー」（静岡県富士山世界遺産センター）

和山集落で木鉢の製造をされていた故山田和幸さんの木鉢製作道具の姿を紹介するとともに、2021年に実施した秋山木鉢に関するアンケート調査の結果をもとに、木鉢作りと木鉢からみた生活

の姿について分析した。その結果、木鉢の製作は秋山の歴史・文化の特徴を表す重要な事例といえること、作られた木鉢は外に売り出されるだけでなく秋山の中でも日常的に用いられており、製作者や入手経緯に関する情報まで含めて伝承されている品であることが明らかになった。ただし、道具の使用方法や木鉢に関する情報は近年薄れつつあるとの実情も報告された。



井上卓哉さん

#### (4) ミニ資料展示の実施

今回の報告内容に合わせ、役場ホール外のロビーで2件のミニ資料展示を行った。1件は、長谷川報告に関連した江戸時代後期の絵図で、善光寺地震の際に崩落した切明地区の箇所を描いたものである。地震で崩落した土砂が谷を埋め、堰き止め湖ができたが、この絵図は、崩壊前後の様子が変わるように「かぶせ絵図」の形になっている。

そしてもう1件は、白水報告の中でも触れた「リュウ」と呼ばれる岩穴の調査記録と発見された遺物。「リュウ」は、かつて猟師たちが豪雪の冬期に狩猟の拠点とした洞穴である。今知られている3箇所の「リュウ」を以前に地元郷土史家の石沢三郎さんが調査されたときの記録であり、またその内部から発見された「山茶碗」の破片と動物の骨である。

実はこの展示、事前に予定していたものではなかった。ただ、久しぶりの全面規制なし開催でもあり、何かミニ展示ができればと考えてはいた。前日に考古班の高橋さんに伺ってみると、「リュウ」の遺物が「こらっせ」にあるとのことで、また長谷川報告で触れられる斜面崩落絵図についてもすぐ用意できることが確認できた。そこで当日の朝になって急遽展示を行うことになったのである。展示に使えるような資材を急いで「こらっせ」からいくつか見つけろって持ち出し、ホール前のテーブルなどを借りて展示を完成させた。



#### (5) 報告会動画の配信

報告会終了後、プロローグ・各報告・エピローグに整理された記録動画が YouTube の栄村教育委員会チャンネルで公開された。公開は5月末までの限定となっており、URL は当会からのメールやBBS、ブログでお知らせした。

### 3. 会計報告

[2022年12月11日～2023年3月31日までの支出]

< 宿泊・厚生関係 >

○入浴代(6名)	3,000円
○宿泊費補助(2泊・1名分・2023年3月26日)	6,000円

-----	
小計	9, 0 0 0 円
[2022年12月11日～2023年 3 月31日までの収入]	
○寄付金 (加藤良子様)	9, 0 0 0 円
○預金利息	5 円
-----	
小計	9, 0 0 5 円
<b>[残 額]</b>	<b>1, 2 6 1, 1 9 0 円</b>

※本報告書中、とくに執筆者の記載がない部分や撮影者注記のない写真は、白水が担当・提供した。

3.12 長野県北部震災から12年

第2回 栄村の文化と自然報告会

**栄村の歴史文化と自然を再発見！**  
～ 知れば知るほど栄村はすごい！ ～

日時：2023年(令和5)3月25日(土) 12時30分開場 13時開演

会場：長野県下水内郡栄村 村役場内「かたくりホール」

主催：地域史料保全有志の会／共催：栄村教育委員会・栄村公民館

震災後の文化財救出から始まった保全活動を通して、栄村の文化の厚みが次第に明らかになってきました。さらに近年は、村誌編纂に関わる調査研究や考古遺跡の発掘、そして身近な動植物調査からも、栄村のすごさを知る新たな手がかりが続々と発見されています。

文化財保全活動報告会を衣替えして昨年からはじめた「栄村の文化と自然報告会」を今年も開催することになりました。コロナ禍の中でもなるべく多くの皆さんに参加していただけるよう、昨年と同様にオンライン同時生配信(Zoom)も行います。会場に来なくても参加できます！

■■■ プログラム ■■■

13:00～13:05 開会の挨拶／白水 智(地域史料保全有志の会)

13:05～13:15 教育長挨拶／下 育郎

[身近な遺跡と自然を知ろう！]

13:20～13:40 長瀬新田遺跡表採資料の概要

高橋健樹(武威村山郷土の会事務局長)

13:45～14:05 すごいぜ！栄村の自然 Part3

～保全活動の取組からわかる希少種の実態～  
涌井泰二・広瀬明彦(栄村希少動植物調査員)

14:10～14:30 はたして、忌避剤により”秋山熊”から森を守れたのか？

柳澤賢一(長野県林業総合センター研究員)

14:35～14:55 栄村で2022年に発生した2箇所斜面崩壊について

長谷川裕彦(明星大学)

\*\*\*\*\* 休 憩 \*\*\*\*\*

[秋山郷を知る小特集！]

15:10～15:30 「秋山」の始まりについて

白水 智(中央学院大学／地域史料保全有志の会)

15:35～15:55 秋山木鉢を作る・使う ―木鉢にみる秋山のくらし―

井上卓哉(静岡県富士山世界遺産センター)

★お問い合わせ：栄村教育委員会 電話0269-87-3118